

不登校には4つの要因があります

お子様の不登校要因に
合わせたプログラムを
不登校対策AIにより提供



Before

- 子どもと会話が続かない
- カウンセラー相談で時間が過ぎる
- 不登校が何度も繰り返される



After

- 適切な親子関係を再構築
- 着実なアクションで再登校に繋がる
- 意識、生活が変わり登校が当たり前

登校できない
要因を知りたい

お任せください

不登校対策AI™がアンケート結果から4つの要因（①学校関連のストレス ②人間関係 ③家庭への依存 ④非行の傾向）で診断するため、人間関係や学校そのものなど、不登校に繋がっている要因を把握できます。

子どもにどう接すれば
よいのか分からない

お任せください

不登校状態のお子様は自己否定に陥っていることが多いため、響く言葉の選び方が難しくなります。まずは対話が普通にできるようになった上で、お子様が前向きになるような接し方をサポートいたします。

着実に改善できる
方法を知りたい

お任せください

不登校を漠然とした問題ではなく、切り分けた要因別に対処を行えるため、一歩ずつ状態を良くしていくことができます。不登校のきっかけではなく、不登校が続いてしまう要因の解決がプログラムの中心です。

料金

一式 30,000円（税込み）

不登校に悩む生徒たちを一人でも減らし、笑顔を取り戻すことを使命としています。



当社は、認知行動療法や海外の先行事例を基に、不登校の予防と再登校支援サービスを提供する企業です。

代表の子どもが不登校になった経験を発端として、年々増加する不登校の問題、家庭や学校が早期に対応することが難しい現状、そして不登校の予防が各家庭の属人的な努力に委ねられがちになる課題を解決するために、このサービスを立ち上げました。

導入いただいたご家庭からは、『お互いに笑顔が増えたことが一番うれしい』『自分から学校に行くと言ってくれた』とご好評をいただいております。さらに役立つようなサービスになるよう日々改善を重ねています。お子様の不登校が続いてしまう要因を明らかにすることで、再登校に繋がる道を進みやすくなるよう、今後も務めたいと考えております。

トーコ
ToCo株式会社

〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町23番17号

詳細、お申込みはこちらから

トーコ 再登校支援



<https://toco.mom/>



学校カルテイメージ

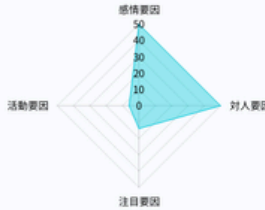
□□様

回答日 2024/6/5

● 不登校強度



● ストレス要因



感情要因	50点	学校に関連する物事に対して否定的な感情やストレスを抱えている度合い
行動要因	50点	学校での対人関係や友達との少なさ、人前での発表などで苦しんでいる度合い
注目要因	14点	親に注目してもらいたい、家族から離れたくないという依存の度合い
活動要因	6点	学校以外の場所で活動したり、楽しみたいという思いが強い度合い

● 総括

お子様の不登校の要因を把握するために行ったアンケートの結果からは、「対人要因」と「活動要因」が特に強い影響を持っていることが分かりました。「対人要因」においては、学校での人前での発表や他の生徒との会話に対して強い苦手意識や不安感が見られます。また、「活動要因」においては、学校外での活動や友達との遊びなどに対する意欲が非常に高く、学校生活よりも外での楽しみに意識が向いている様子がうかがえます。これらの要因から、お子様にとって学校は「楽しさ」よりも「緊張や不安」を感じる場所であり、学校生活よりも外での活動が安心できる、あるいは価値を感じられるものとして位置づけられている可能性があります。特に、アンケート結果の上位には「活動要因」に関連する項目が並び、平日に学校を休んでいる時に友人と遊んだり、どこかに出かけたりすることを好む気持ちが最大限に高まっていることが確認されました。また、学校以外での楽しいことをしたいという意欲も非常に強く、お子様が学校に魅力を感じられないことが不登校の要因の一つとして考えられます。このように、お子様の不登校には「対人関係の不安」と「学校生活よりも他の活動を好む傾向」が複合的に作用していると言えるでしょう。

● 感情要因

感情要因では、「学校にいると嫌な気持ちになる」「学校に対して恐れや緊張を感じる」といった感情が見られ、お子様が学校に対して全般的に不安感や拒否感を抱えていることが示されています。特に、同年代の他の子供たちと比べて学校に対する否定的な感情が強い傾向が見られ、学校にいること自体が心理的負担になっているようです。また、「嫌な気持ちが少なくなれば学校に行きやすくなるか」という設問に対しても高いスコアが出ていることから、お子様が学校での否定的な感情を和らげられる環境であれば、登校しやすくなる可能性があることがうかがえます。

● 行動要因

対人要因においては、お子様が「学校で人前に立つと恥ずかしさを感じやすい」「他の生徒と話すことが負担である」といった具体的な不安がスコアに現れています。特に、人前での発表や人と対面する状況に対する抵抗感が強いことから、学校生活における集団行動や他者との交流が大きなストレスになっている可能性があります。また、「グループ作り」や「話がうまく伝わらない」といった具体的な状況でも苦手意識を感じており、このような場面が重なることによって学校に対する心理的ハードルが上がっていることが予測されます。

● 注目要因

注目要因では、「親と一緒にいる方が安心する」という思いが一定のスコアとして表れています。特に、学校生活よりも親との時間を好む傾向があることから、お子様は家族のサポートを求める気持ちが強いようです。このような傾向は、お子様が家庭環境において安心感を感じやすいことを示しており、家庭が心の支えとして大きな役割を果たしていることが考えられます。ただし、注目要因全体のスコアとしては他の要因に比べて低く、過度な依存というよりも、安心できる場所として家族に頼りたいという範囲にとどまっているようです。

● 活動要因

活動要因においては、お子様が「学校外の活動を好む」「平日に学校を休んで友人と遊ぶことを望む」など、学校以外の場所での楽しさに強い意欲を示しています。この要因が全体の中で最も高いスコアを占めており、お子様にとって学校外の活動が学校生活に代わる重要な存在であることが分かります。活動要因の高さは、お子様にとって「学校は拘束感のある場」である一方で、学校外の時間は「自由や楽しさを味わえる場」という対照的な位置づけを反映していると言えるでしょう。学校外での活動への関心が非常に強いため、学校への関心が薄れ、不登校が続いている可能性があります。

● 個別要因 (上位10位まで)

対人要因	同じ年の子と比べて学校の人たちを避けることは、どのくらいありますか？	83
感情要因	土日に学校について考えると嫌な気持ち(恐れ、緊張する、悲しいなど)になることは、どのくらいありますか？	83
感情要因	学校に関係のあること(テスト、先生、プール、電車やバスなど)で、嫌な気持ちになることは多いですか？	67
対人要因	学校で他の子と話すことは、どれくらい大変だと感じますか？	67
感情要因	学校で悲しい気持ちや憂鬱な気持ちになることは、どのくらいありますか？	67
対人要因	新しい友だちを作りたいとどれくらい強く思っていますか？	67
注目要因	学校に行くより親と一緒にいたいと思うことは、どのくらいありますか？	33
対人要因	学校で皆の前に立つと恥ずかしいと感じることは、どのくらいありますか？	33
感情要因	家で誰かと一緒にいる時と比べて、学校にいる時の方が嫌な気持ち(恐れ、緊張する、悲しいなど)になることは、どのくらいありますか？	33
感情要因	学校についての嫌な気持ち(恐れ、緊張する、悲しいなど)で、登校したくないと思う時はありますか？	33

